

神の国の教え⑦いちじくの木のとえ

ルカの福音書13章6-9節
2012,12,9 HKJCF

I 概要

- 序)①神の国と終末②神の国の入国方法
- 1、いちじくの木のとえ(1) 6-9
 - 2、いちじくの木のとえ(2)
 - 3、エレミヤ哀歌の預言から
 - 4、適用

Ⅱいちじくの木のとえ(1)

- 1、ブドウ畑といちじく:イスラエルの象徴
 - 2、主人:神様
 - 3、番人:イエス様
 - 4、肥やし:十字架(イエス様の血潮)
 - 5、実:信仰
- ⇒神の義と愛、そして十字架
- ①譬えの解釈は聖書全体から
 - ②譬えの中心は福音

Ⅲいちじくの木のとえ(2)

- 1、イスラエルの歴史 人↑神の基準
 - 2、神様の忍耐
 - 3、ヨハネとイエス様の伝道
 - 4、十字架の救い 神↓人の現実
- ⇒①神様が人となり、十字架に掛かり、私たちの罪の身代わりになられた ②求められるのは私たちの信仰 ③いちじくの木は結実のためにある(他に用途はない)

Ⅳエレミヤ哀歌の預言から

- 序)エレミヤの時代:南ユダの滅亡と捕囚
- 1、滅びの必然性と恵み 哀歌3:22-24
 - 2、悔い改めがチャンス 哀歌3:25-40
- ①神様の下にへりくだる 25-33
 - ②神様に立ち返る 40
- 3、十字架の救い ヨハネ3:16
- ⇒神様のみ心は全人類の神の国入国
⇒神の国の福音(救い)中心に生きる

V 適用

- 1、私たちは 12:58-9
- ①負債の完済を求められている
 - ②人↑神は不可能、神↓人が主の方法
- 2、キリストは最後の手段として 13:1-9
- ①十字架の身代わりの死を選ばれた
 - ②信仰の最終的備え:主の血潮
- 3、主の救いを重んじよう:十字架の恵み
を感謝し、隣人の救いのため祈ろう